見聞考

見たい 立ちたい この舞台

富山 ミュージカルの「奇跡」

中心に元宝塚トップ剣幸さん

上「ショウ・ボート」で熱演する剣幸（中央）
下「ミー＆マイガール」（2013年）＝いずれも富山市民文化事業団提供

北陸新幹線の開通で華やぐ富山に、この5年ですっかりおなじみになったものがある。それはミュージカル。富山市芸術文化ホール「オーバード・ホール」の名作ミュージカルシリーズは地方から質の高い芸術文化を発信し、高い評価を得てきた。3月に上演した「ショウ・ボート」で一区切りになるが、公共ホールの新しい可能性をひらいた。

「ショウ・ボート」初日の3月12日。壮大な船のセットが舞台に現れると、客席から「おおーっ」と声があがった。ミシシッピ川に浮かぶ劇場船で働く芸人たちの恋愛や家族模様、人種差別の問題が哀切な曲にのって描かれる。

名作ミュージカルシリーズをしめくくる第5弾。物語の核となるカップルを演じる土居裕子、岡幸二郎らはオーディションを勝ち抜いた第一線の俳優たちだ。3時間の舞台、力強い歌声と演技で魅了した。これで5千円とは安すぎないか。

富山の舞台に立ちたい、と俳優に思わせる。ミュージカルを見ようと全国からお客が来る。演劇評論家の扇田昭彦(74)は「地方の公共ホールで、かつてないことをやってのけた」と語る。「富山の奇跡」だ。

ホールは1996年にオペラ上演用につくられ、最大2200席。今年3月末まで芸術監督を務めた奈木隆(59)がシリーズを企画し、引っぱった。オーディションで俳優を選び、オーケストラやコーラス、スタッフとして市民が参加し、ブロードウェーミュージカルに挑戦してきた。

1作目の「回転木馬」は2011年3月、東日本大震災直後の上演だった。2作目の「ハロー・ドーリー！」(12年)は日本語版の初演に挑んだ。3作目は「ミー＆マイガール」(13年)。ロンドンでロングランを記録したヒット作だ。「ハロー・ドーリー！」(13年)の再演は、東京芸術劇場（池袋）でも上演され、専門誌の年間ベストテンで作品部門の2位に輝いた。

すべてに出演したのが富山出身の俳優剣幸。「東京に通用するものをつくろうとワークショップを積み、役者もスタッフも成長してきた」と振り返る。稽古は毎回2カ月がかり。間口が舞台とほぼ同じ広さの稽古場が市内にあり、じっくり舞台作りができた。

剣は富山工業高校から宝塚歌劇団に入り、月組トップスターとして活躍した。90年に退団後は東京を拠点に活動してきた。「故郷とつながることができないかと、ずっと思っていました」

宝塚時代の代表作「ミー＆マイガール」の主役のビルを25年ぶりに「男役」として演じたのも画期的だった。今年11月、その再演が富山でかなう。「ミュージカルが富山の人の糧になったらいいなと思うし、この挑戦がここでプツンと切れないよう願っています」

扇田は12年の「ハロー・ドーリー！」初演でこのシリーズを初めて見て、質の高さに驚いた。「東京の舞台に匹敵するものをつくれば人を呼べることがわかった。積み重ねをムダにしないでほしい」

「ショウ・ボート」の巨大なセットは、当初公演後に壊す予定だったが、残されることになった。未来へミュージカルの川を。希望をつなぎたい。

（河合真美江）

文化熟成 継続は力

富山市民文化事業団
奈木隆・前芸術監督

ホールを運営する富山市民文化事業団で09年からプロデューサーを務め、11年からは芸術監督としてミュージカルシリーズを率いた奈木隆・前芸術監督に聞いた。

「ミュージカルがやりたい！」と手を挙げて、好きなことをやってこられた。富山市と国の助成金や入場料、協賛金を合わせて毎回約1億円かけて作品を作ってきました。他の都道府県からも見にきてほしかった。プロと市民が一緒になって、高いレベルのものを作りたかったのです。

オーケストラもほとんどが富山出身者。練習を積み重ねました。富山県民はまじめですからね。それに、剣幸さんに出会えたことが大きかった。ど真ん中の大きな存在でした。

「ハロー・ドーリー！」の日本語版初演は奇跡です。米国でずっと演じてきた女優キャロル・チャニングが90歳を迎え、「もういいわ」と許可がおりた。タイミングがよかった。

この5年で富山の人がミュージカルを好きになってくれた。スタッフや役者が育った。ただ、文化が熟成するには5年では足りない。10年20年かけて若い人を育てていかなければ。そうしてものを作るのが劇場の使命です。富山はひとつのケースをつくった。継続は力なり。火を絶やさないでほしい。